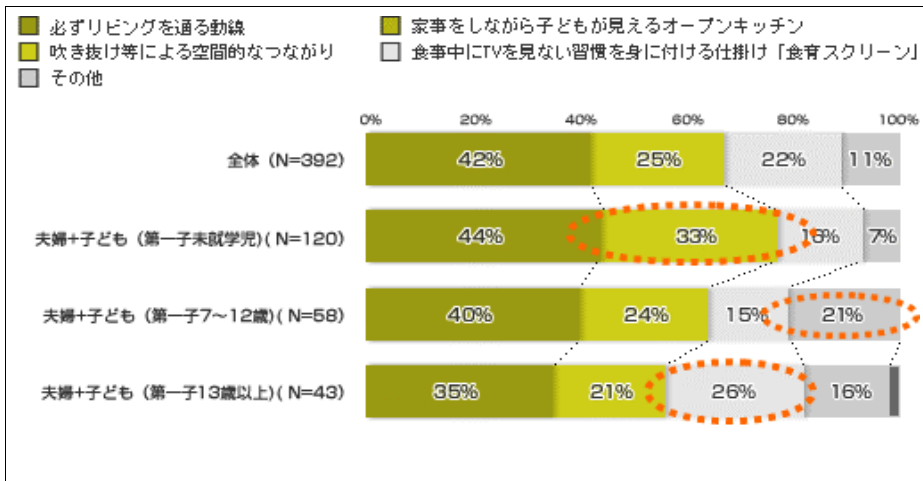


添付：「子どもとのコミュニケーションと住まい」アンケート結果

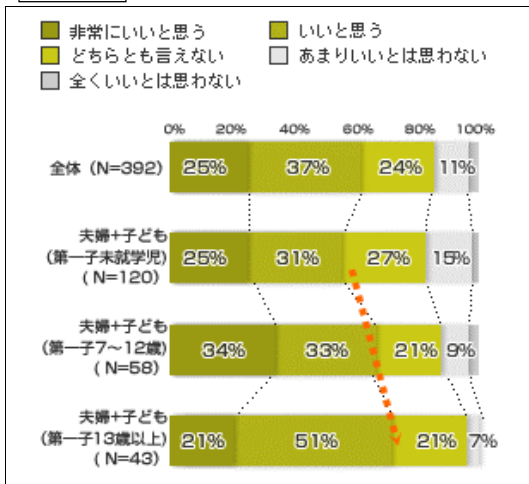
グラフ1

子どもとのコミュニケーションをとる上で、住宅の間取りなど空間上の仕掛けや工夫が重要だという意見をいただきました。今度、家を作るとしたら、最も採用したいのはどれですか？



グラフ2

特集で、家族が通る動線の途中にちょっとした本を置くスペースを作った例をご紹介しました。このスペースについてどう思いますか？



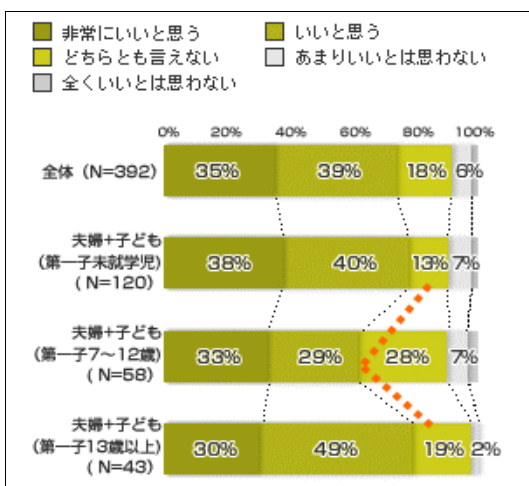
動線の途中に設置した本を置くスペースの例



家族が通る動線の途中の本を置くスペース。

グラフ3

お子様が勉強をしたり、お絵描きをしたりする場所として、特集でご紹介した写真のような階段ホールのスタディコーナーについてどう思いますか？



階段ホールのスタディコーナー



リビングの吹き抜けを介して、2階の回廊式の廊下の部分に設置したスタディコーナー。

「子どもとのコミュニケーションと住まい」アンケート結果URL

公開日： 2007年11月20日より

公開URL： <http://www.brighthouse.jp/ouchiclub/result/result22.htm>

リリースに掲載したグラフの他、言語データを多数掲載しています。

発育期の特徴と空間 (※住居学 第二版/彰国社刊より)		住宅プランのニーズ (おうち*くらぶ調べ)	
	特性※	生活要求※	
		空間要求※	
<p>幼児期 (2～5歳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「じぶんで」「ひとりで」の主張 ・基本的な生活行為の自立 (食事・排泄・着替え) ・仲間遊びの発展 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活ルールの認識 ・家事への参加 ・兄弟の模倣 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども専用の収納家具 ・プレイルーム ・家の形、広さへの要求の芽生え (他との比較可能) ・私の場所、空間への要求の芽生え 	<ul style="list-style-type: none"> ●必ずリビングを通る動線 ●家事をしながら子どもが見えるオープンキッチン ●オープンキッチンから目の届くファミリーコーナー 	
<p>学童期 (6～11歳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活能力の育成 ・自己判断による活動範囲の広域化 ・学習活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員としての自覚 ・家庭文化の伝承 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・学習机、本棚 ・就寝の独立 (ベッド) ・衣類収納家具 ・家事参加可能な設備 	<ul style="list-style-type: none"> ●リビングを必ず通る動線 ●食事中にTVを見ない習慣を身につける仕掛け「食育スクリーン」 ●動線途中に本を置くスペース 	
<p>生徒期 (12～14歳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活上の自立の育成 ・自立的な生活の育成 ・学習活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の責任管理 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・専用個室の必要 (インテリア、掃除) 	<ul style="list-style-type: none"> ●吹き抜け等による空間的なつながり ●動線途中に本を置くスペース ●階段ホールのスタディコーナー 	